

CASBEE® 名古屋

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE 総合評価シート(表1) 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

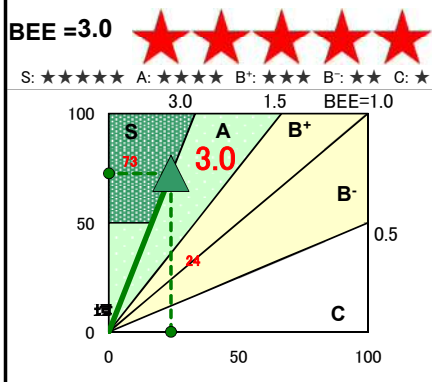
1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	STATION Ai	階数	地上7F
建設地	名古屋市昭和区鶴舞1丁目201他	構造	S造
用途地域	近隣商業地域・商業地域、防火地域	平均居住人員	1,500 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、飲食店、ホテル、等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年9月 予定	評価の実施日	2022年10月28日
敷地面積	7,304 m ²	作成者	
建築面積	4,489 m ²	確認日	2022年10月28日
延床面積	23,615 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.0

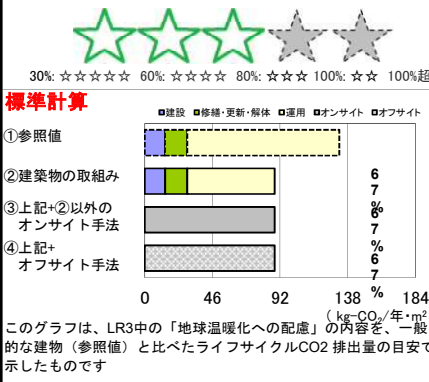
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★



2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

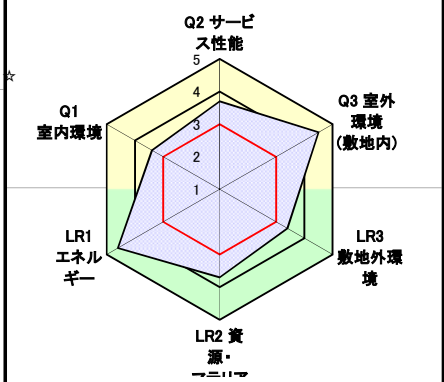
標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

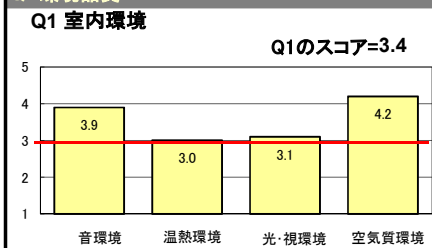


2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.9

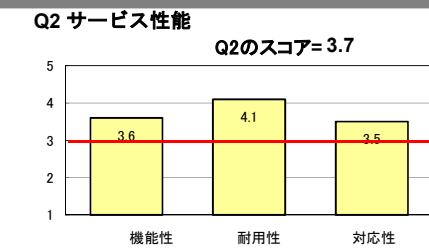
Q1 室内環境

Q1のスコア=3.4



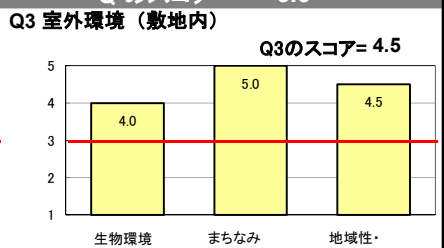
Q2 サービス性能

Q2のスコア=3.7



Q3 室外環境(敷地内)

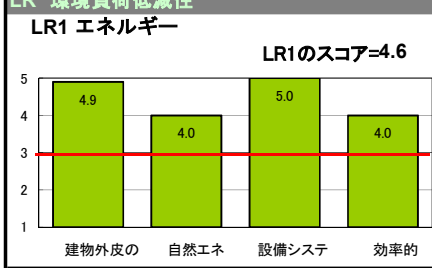
Q3のスコア=4.5



LR のスコア = 4.0

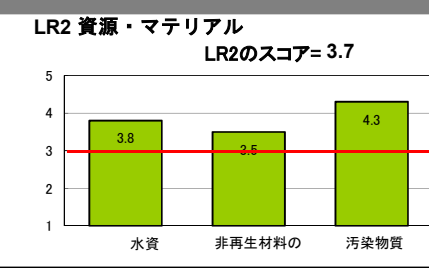
LR1 エネルギー

LR1のスコア=4.6



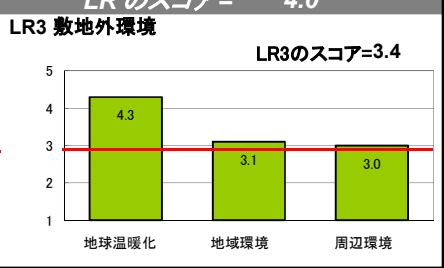
LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア=3.7



LR3 敷地外環境

LR3のスコア=3.4



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
鶴舞公園側に緑化されたテラスを立体的に配置し、公園と一体的な景観を形成している。低層部は公園と一体となったオープンな施設づくりとし、地域にも開かれた賑わいのある空間を計画した。また、高効率設備の導入による省エネルギー化や災害時の防災拠点としての機能も整備している。		災害時の防災拠点として機能する施設計画としている。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
空調・照明制御等の省エネ技術の導入や吹抜を利用した自然通風などにより快適な室内環境の実現を図った。	高い耐震性能やインフラバックアップ機能を確保し、事業継続性に配慮した計画としている。メンテナンスバルコニーを設置することで、設備の更新性やフレキシビリティに配慮している。	敷地内に十分な空地や緑地を整備し、緑化されたステップテラスを計画し、緑あふれる歩行者空間や景観を創り出す計画としている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
Low-E複層ガラス・バルコニー等により建物の熱負荷抑制を図り、各種省エネ技術の採用により空調設備や照明設備の消費エネルギーの低減を図った。また太陽光発電パネルの設置により、自然エネルギー利用にも配慮した。	雨水利用率20%以上、節水型器具の採用、再生材、リサイクル材を使用するなど、資源の保護・削減に努めている。	屋上緑化や室外機の分散配置によりヒートアイランド現象を抑制する計画とした。雨水貯留槽による下水道への負荷軽減やEV用の急速充電スタンドを設置した。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■ LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照された

重点項目スコア・結果シート

STATION Ai

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.5
LR1	エネルギー	4.7	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.3	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				4.1
Q3.1	生物環境の保全と創出	4.0	0.090840956	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	有	0.009084096
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	4.0	0.045420478	
3. 循環型社会				3.6
LR2.1	水資源保護	3.8	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.5	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	4.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.5



2. 自然共生

評価点 = 4.1



3. 循環型社会

評価点 = 3.6



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。